

庄内の美術家たち 10

郷土文化に関する企画として、庄内で活躍し、地域の芸術の発展に貢献した作家を紹介する展覧会「庄内の美術家たち 10 追想・明治の絵師 加藤雪窓」展を開催します。

加藤雪窓は明治 5 (1872) 年、旧秋田藩士の家に生まれました。幼くして父親を失い、漢学に通じていた祖父久恒 (主鈴) に育てられ、書を大越関石、絵を小室秀俊 (怡々斎) に学びました。廃藩後の情勢のなか、久恒は秋田を離れ、早くして才気を見せた孫とともに諸国遊歴の旅に出ました。書や絵を糧にし、酒田、上州、関東など、約 7 年にわたる旅程の末、ようやくふたりが身を落ち着かせたのが港町酒田でした。

この地で友人たちに恵まれた加藤雪窓は、明治 29 (1896) 年、本格的な画業研鑽のために上京し、当時の日本美術界の重鎮のひとりである橋本雅邦に入門します。西洋画の影響を受け、新たな日本画の創造を目指す中央画壇の画家たちのなかでも、幼少から鍛え上げた加藤雪窓の腕は早くから認められ、日本絵画協会をはじめとして、多くの展覧会で彼の絵が賞を受賞し、宮内省の買上げになった作品もありました。明治 34 (1901) 年には一家で東京に居を構え、画家として邁進していくも、師の橋本雅邦がこの世を去った明治 41 (1908) 年、突如、加藤雪窓は東京から酒田へ帰り、以降、大正 7 (1918) 年に没するまで、同地で旧知の者たちと交流し、時に旅をし、また、筆を執り続けて、酒田の絵師として生涯を終えました。

本展覧会では、加藤雪窓を明治から大正へと至る時代のなかで見直すとともに、彼が描いた人物図や山水図などの屏風や掛軸、約 20 作品を展覧します。

ギャラリートーク

2月7日(土)、2月28日(土) 各回 14:00~15:00

学芸員による作品解説を行います

申込不要、会場へ直接お越し下さい(観覧券が必要です)



1



2



3



4



5



6

- 1 「岩戸別命尊像」絹本着色・軸装・一幅 酒田市立資料館蔵
- 2 「菅公御衣之図」絹本着色・軸装・一幅 致道博物館蔵
- 3 「故事人物図屏風」(左隻) 絹本着色・六曲屏風・一双 本間美術館寄託
- 4 「三顧の礼図」絹本着色・軸装・一幅 個人蔵
- 5 「山水図」絹本墨画淡彩・軸装・一幅 本間美術館蔵
- 6 「漁夫図」紙本墨画淡彩・二曲屏風・一隻 本間美術館蔵



※お車でお越しの際は、鶴岡公園中央駐車場が最寄りです(無料)

鶴岡アートフォーラム

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3

TEL: 0235-29-0260 (代表) FAX: 0235-22-6051

E-mail: info@t-artforum.net URL: http://www.t-artforum.net